

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **10283400 A**

(43) Date of publication of application: 23 . 10 . 98

(51) Int. Cl. **G06F 17/60**

(21) Application number: 09090874

(22) Date of filing: 09 . 04 . 97

(71) Applicant: COSMO TEC TOKKYO JOHO
SYST KK

(72) Inventor: OGASAWARA KEIZO
OTSU SHOICHI
OTANI MITSUTOSHI

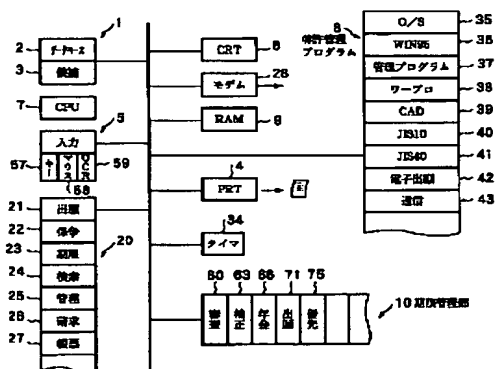
(54) PATENT WORK INTEGRATING PROCESSOR

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To save the trouble of patent work and to maintain the accuracy of a time limit by making windows software and a patent control totally operate and rearranging and displaying incidents which are close to the time limit in order.

SOLUTION: A windows type computer is used which runs more than one practical program in parallel and displays them on a screen one over another or by reduction. A patent control program 8 which previously stores the knowledge of the application procedure and registration procedure laws for industrial property and a data base 1 which stores data regarding the procedures are provided. The patent control program 8 compares the time limit based upon the application and registration procedure laws with the actual time of a timer 34 as to data in the data base 1 and displays a time limit list on a display device 6. On the basis of the sharing degree of registered data in windows 36, retrieval from the data base 1 is performed according to various sorting conditions of the application and registration procedures, and sorting results are displayed on the display device 6 and then printed on a printer 4.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-283400

(43) 公開日 平成10年(1998)10月23日

(51) Int.Cl.⁶

G 0 6 F 17/60

識別記号

F I

G 0 6 F 15/21

Z

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平9-90874

(22) 出願日 平成9年(1997)4月9日

(71) 出願人 596139421

コスモテック特許情報システム株式会社
東京都港区芝3丁目22番7号

(72) 発明者 小笠原 慶三

東京都港区芝3丁目22番地7号 コスモテック特許情報システム株式会社内

(72) 発明者 大津 彰一

東京都港区芝3丁目22番地7号 コスモテック特許情報システム株式会社内

(72) 発明者 大谷 光利

東京都港区芝3丁目22番地7号 コスモテック特許情報システム株式会社内

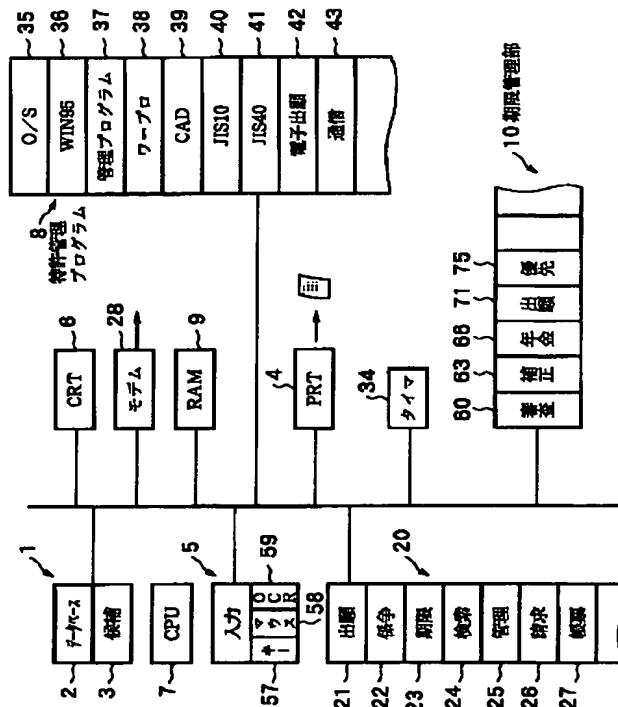
(74) 代理人 弁理士 八嶋 敬市

(54) 【発明の名称】 特許事務総合処理装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 工業所有権法上の手続きにおける正確性と期限性のために発生する煩雑な業務と、人手の介在に対する省力化と経費節減を実現し、法上に照らした期限管理の安全強化を確立する。

【解決手段】 工業所有権の出願手続き及び登録手続き法を予め記憶した特許管理プログラムと、前記手続きに関し入力したデータを格納する登録データベースとを備える。特許管理プログラムがこの登録データベース内のデータについて、手続き法に基づく期限とタイマからの実時間とを比較して期限一覧表を表示装置に表示する。登録データの共有性に基づき、前記出願手続き及び登録出願手続き上の各種ソート条件に従って、登録データベースを検索する。そのソート結果を表示装置に表示し、その画面を印刷装置で印刷する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 表示装置と初期設定後は蓄電池と電源投入により継続して実時間を計数するタイマと表示装置の画面を印刷する印刷装置とを備え、表示装置の画面に実用プログラムに対応する画像のアイコンを表示し、カーソルでアイコンを指示し、マウスを操作することにより、該当する実用プログラムを実行し、複数の実用プログラムを平行して実行し、これらを重ねてまたは縮小して画面に表示するウインドウ型コンピュータにおいて、工業所有権の出願手続き及び登録手続き法を予め記憶した特許管理プログラムと、前記手続きに関し入力したデータを格納するデータベースとを備え、前記特許管理プログラムがこの登録データベース内のデータについて、前記手続き法に基づく期限と前記タイマからの実時間とを比較して期限一覧表を前記表示装置に表示し、かつデータの共有性に基づき、前記出願手続き及び登録出願手続き上の各種ソート条件に従って、データベースを検索し、ソート結果を前記表示装置に表示し、その画面を前記印刷装置で印刷する特許事務総合処理装置。

【請求項2】 前記特許事務総合処理装置に外部と通信可能なモデムを設け、実用プログラムに特許庁の電子手続き受付に対応する通信プログラムを追加して、通信回線による電子手続きをすることを特徴とする請求項1記載の特許事務総合処理装置。

【請求項3】 前記実用プログラムに前記手続きに関する手数料の請求プログラムを追加し、前記手続き作業に係る請求書を前記表示装置に表示し、その画面を前記印刷装置で印刷して請求書を発行することを特徴とする請求項1記載の特許事務総合処理装置。

【請求項4】 前記実用プログラムに前記手続き用のワードプロセッサプログラムと製図プログラムとを追加し、前記手続き作業に係る文書と図面を作成し、この文書と図面の属性を前記登録データベースに格納することを特徴とする請求項1記載の特許事務総合処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 この発明は、特許事務総合処理装置に関し、特に工業所有権法の特許法、実用新案法、意匠法、商標法、パリ条約、PCT条約等の業務に係る各種作業を整理、検索、保管、管理する特許事務の処理装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 市場では従来より、種々の特許管理ソフトが販売されているが、これらは、本来の目的に十分に対応していないのが現状である。本願発明者は、先端技術により開発されたデータベースの発展と、特許業界において永年にわたり蓄積されたノウハウに、過去の開発経験を結合して本システムを開発した。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 従来の方法では、特許取扱における正確性と期限性のために発生する煩雑な業務のため、人手の介在が多く経費がかかっていた。更に、工業所有権法、例えば特許法に照らした期限管理の安全強化の確立が最も重要な課題であり、永年の念願となっていた。一方、コンピュータの高性能化と低廉化と記憶装置の高密度化、小型化を武器に特許管理業務装置の開発が望まれていた。この発明は、特許管理業務の期限管理の安全強化の確立と、人手の介在に対する省力化と経費節減を実現することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】 この発明は、表示装置と初期設定後は蓄電池と電源投入により継続して実時間を計数するタイマと表示装置の画面を印刷する印刷装置とを備え、表示装置の画面に実用プログラムに対応する画像のアイコンを表示し、カーソルでアイコンを指示し、マウスを操作することにより、該当する実用プログラムを実行し、複数の実用プログラムを平行して実行し、これらを重ねてまたは縮小して画面に表示するウインドウ型コンピュータを利用する。工業所有権の出願手続き及び登録手続き法知識を予め記憶した特許管理プログラムと、前記手続きに関し入力したデータを格納するデータベースとを備える。特許管理プログラムがこのデータベース内のデータについて、前記手続き法に基づく期限と前記タイマからの実時間とを比較して期限一覧表を前記表示装置に表示する。ウインドウにおける登録データの共有性に基づき、前記出願手続き及び登録手続き上の各種ソート条件に従って、データベースを検索し、ソート結果を表示装置に表示し、その画面を前記印刷装置で印刷する。特許取扱における正確性と期限性のために発生する煩雑な業務と、人手の介在に対する省力化と経費節減を実現した。特に、工業所有権法上に照らした期限管理の安全強化を確立した。

【0005】

【発明の実施の形態】

実施の形態1. 図1は特許事務総合処理方法を実行する情報処理装置の全体のブロック図である。図1において、データベース1は磁気等の記憶装置から構成され、データベース1には本装置に登録して確定した登録済データ2と多数の候補文字列（用語）3とが予め格納されている。

【0006】 プログラム装置8は、装置全体の基本ソフトのO/S35とWINDOWS95ソフト36と特許事務総合管理プログラム37とワープロソフト38と作図ソフト39とJIS10変換ソフト40とJIS40変換ソフト41と電子出願ソフト42と通信プログラム43とその他を記憶する。特許事務総合管理プログラム37には、工業所有権法の各法に対応する専門知識が予め格納され、即ち特許法、実用新案法、商標法、意匠

法、国際出願法、パリ条約その他の法に対応した知識と例えば法定期限からなり、これらは工業所有権法上で手続きされる各業務（以下単に事件という）を管理する。

【0007】入力装置5はキーボード57とマウス58とスキャナ等のOCR59とからなり、入力装置5から各種の命令やワープロ文字や確定命令を入力する。CRT等の表示装置6には、作成中の特許事務総合管理の途中結果やプログラムの要部画面や作成後の結果を表示する。表示装置6の画面は印刷装置4により文字や画像が印刷される。キーボード57から各種の指令入力を行い、演算装置のCPU7は特許事務総合管理プログラム37を実行し、RAM9は演算装置7のワークエリアとなる。

【0008】タイマ34は初期設定後は蓄電池の働きにより、本体の電源オフ時にも年月日時間分秒を計測し、年月日時間分秒データをCPU7に送る。モデム28は通信プログラム43により、電子出願等の外部とのデータ通信を行う。なお、データベース1とプログラム装置8とフォーマットテーブル20とは磁気記憶装置に形成するので、同一のハードディスクに区域分けして設定できる。

【0009】次に、フォーマットテーブル20は、フラグ欄等の記入域をそれぞれ備えた例えば特許の出願入力画面21、係争入力画面22、期限入力画面23、検索入力画面24、管理入力画面25、請求入力画面26、帳票入力画面27を記憶している。次に、図2に示す各アイコン、書類の山の絵の出願50、刀が会わされたの絵の係争51、カレンダーの絵の期限52、虫眼鏡の絵の検索53、鍵の絵の管理54、円マークの請求書55、プリンターの絵の帳票56には、フォーマットテーブル20中の図5の特許の出願入力画面21、図6の係争入力画面22、図7の期限入力画面23、図8の検索入力画面24、図9の管理入力画面25、図10の請求入力画面26、図11の帳票入力画面27がそれぞれ対応付けられている。

【0010】期限管理部10は、工業所有権法の4法に対応する各種の期限を管理する、例えば審査請求期限設定細胞60と補正期限設定細胞63と年金納付期限設定細胞66と出願期限設定細胞71と優先権期限設定細胞75等とその他の期限細胞から構成される。

【0011】次に、期限管理部10の各期限設定細胞について図3で詳しく説明する。特許事務総合管理プログラム37からは、入力されたまたは設定される事件について、出願種別に従い特・実・商標・意匠等に対応した知識がCPU7に提供される。審査請求期限設定細胞60は、例えば特許出願日の年度込み日付けデータが本装置に入力されると、7年後（特許法で決められた期限）の年度込み日付けを算出し、審査請求期限データとして審査請求期限記憶位置61に格納する。

【0012】特許出願日は出願書類を特許庁に提出（電

子出願でもよい）後、オペレータが入力装置5を使用して本装置に入力（登録）する。審査請求期限判断細胞62は、データベース1の登録データ2からパス70を介し出願年月日データを、審査請求期限記憶位置61から審査請求期限データとを入力して、審査請求期限データから出願年月日データを引き算して、残年月日を算出し、パス70に送る。これらはCRT6に表示されるので、審査請の余裕期間が何年何月何日残っているかわかる。

【0013】補正期限設定細胞63は、拒絶理由書の発送日の年度込み日付データが本装置に入力されると、30日後（特許法で決められた期限）の年度込み日付けを算出し、補正期限日データとして補正書提出期限記憶位置64に格納する。拒絶理由書は特許庁から必要に応じて送られてくるものを、必須項目をオペレータが入力装置5を使用し、データベース1に格納して登録データとなる。補正期限判断細胞65は、登録データ2からの補正書発送日データと補正書提出期限記憶位置64の補正期限日データとを入力して、補正期限日データから補正書発送日データを引き算して、残年月日を算出する。

【0014】年金納付期限設定細胞66は、最初の特許料納付の年度込み日付けデータが本装置に入力されると、3年日後（前納分があればその次の年）の年度込み日付けを算出し、納付期限日データとして納付期限記憶位置67に格納する。年金納付判断細胞68は、タイマ34からの実時間の日付データと納付期限記憶位置67の納付期限日データとを入力して、納付期限日データから実時間の日付データを引き算して、残年月日を算出する。

【0015】出願期限設定細胞71は、特許出願の期限年度込み日付けデータが本装置に入力されると、この期限は顧客が製品を展示会等で発表するために、特許出願を早めに完了したい場合に設定され、出願期限記憶位置72に格納する。特許出願の期限年度込み日付データは、事件受任時にオペレータが入力装置5を使用して本装置に入力（登録）している。出願期限判断細胞73は、出願期限記憶位置72からの期限年度込み日付データとタイマ34からの当日の年月日データとを入力して、期限年度込み日付データから本装置が電源投入される当日の年月日データを引き算して、出願期限までの残年月日を算出する。

【0016】優先権期限設定細胞75は、審査請求期限設定細胞60と同様に、特許出願日の年度込み日付データが本装置に入力されると、1年後（特許法で決められた期限）の年度込み日付けを算出し、優先権請求期限日データとして優先権請求期限記憶位置76に格納する。優先権期限判定細胞77は、タイマ34からの実時間の日付データと優先権請求期限記憶位置76の優先権請求期限日データとを入力して、優先権請求期限日から本装置が電源投入される当日の年月日データを引き算して、残

年月日を算出する。これらはどのようにCRT6に表示されるので、各余裕期間がそれぞれ何年何月何日残っているかわかる。

【0017】さて、特許事務総合処理装置に電源が投入されると、基本ソフトのO/S35とWINDOWS95ソフト36は表示装置6にウインドウズの画面を表示する。このWINDOWS95ソフト36には特許事務総合管理プログラム37が登録されるので、図2の各アイコン、書類の山の絵の出願50、刀が会わされたの絵の係争51、カレンダーの絵の期限52、虫眼鏡の絵の検索53、鍵の絵の管理54、円マークの請求書55、プリンターの絵帳票56もCRT6に表示される。各アイコンの画像は一例であり、各タスクの画面が直感的に理解できるような任意の絵を設定してもいい。

【0018】同時に、期限管理部10は、このプログラムの始動時に自動的に、例えば3ヶ月以内の事務処理すべき事件の期限一覧表画面30を、図12のようにCRT6に表示する。一覧表は印刷装置4で必要に応じ印刷できる、これにより、特許等の手続き無効を防止し、事件の遂行が確保できる。期限一覧表画面30はWINDOWS95ソフト36の画像最小化操作により、図4のようにCRT6の下方に最小化画像31として待機できる。

【0019】期限一覧表画面30のデータはCPU7では活性化状態にあるので、WINDOWS95ソフト36に基づくカーソルKで画像最大化操作を行い、図4のようにCRT6の全面に最大化画像の期限一覧表画面30として表示できる。期限一覧表画面30をCRT6に表示したまま、出願のアイコン50にマウス58を使用してカーソルKを合わせクリックすると、図4において、出願入力画面（機能上の受任管理画面）21が期限一覧表画面30の上に重ねて表示される。

【0020】ここでは出願入力画面21及び期限一覧表画面30のデータは共にCPU7では活性化状態にあるので、カーソルKで重ね位置変更操作により、CRT6上で、いずれかの画面を自由に前面に表示できる。出願入力画面21も同様にWINDOWS95ソフト36の画像最小化操作により、図4のようにCRT6の下方に最小化画像33として待機できる。WINDOWS95ソフト36により、これら期限一覧表画面30と出願入力画面21との切り替え、また最小化画像33から最大画像の出願入力画面21の切り替えも瞬時に自由に行える。同時に、平行して、事務作業を行うので、特許業務で複数の台帳を捲るような煩雑性を殆どなくすることが出来る。

【0021】次に、特許受任から出願手続き等を本装置に入力する手順を説明する。まず、顧客から特許出願の依頼を受け、発明原稿と依頼書に従って特許出願の手続きを本装置に（登録）入力する動作を説明する。図2において、表示装置6の画面上で、書類が積み重ねられた

絵のアイコン50をカーソルKで指示しマウス58でクリックすると、図5の出願入力画面21のフォームがCRT6に表示される。手続き登録の属性の一部となる受付月日、依頼人である出願（予定）人名、出願（予定）人の住所、依頼（顧客整理）番号、出願希望期限月日、発明の名称、顧客担当者（特許担当者）、事務所の担当者、発明者名、発明者の住所等を入力する。

【0022】ここでは、データベース1の候補文字列（用語）3には、例えば出願人の法人名：コスモテック、代表者名：特許太郎、出願人の個人名：特許二郎や、発明者名：実用太郎、実用二郎等がある。候補文字列（用語）3は特許出願入力画面21で参照として表示されるので、カーソルKで選択して特定の法人名等が記入（登録）し、いちいちワープロソフト38を使用して一文字づつキー57から入力する手間が省ける。

【0023】オペレータはカーソルKで指示しマウス58を使用して出願入力画面21について、4法区別、特許、実用、意匠商標の区別を、ここでは特許に指定する。依頼人である出願（予定）人名、出願（予定）人の住所、発明の名称、発明者名、発明者の住所の欄のデータは、特許事務総合管理プログラム37により出願書類の所定の位置に転送されるので、事件の受付月日欄等とは区別する。

【0024】さて、事務所の担当者は発明原稿に従って、顧客からの出願希望期限月日に間に合うように、明細書と図面を仕上げる作業を日々実行する。明細書の作成は、図1のワープロソフト38により、図面作成は同じく製図ソフト39を使用して作業が続けられる。例えば明細書と図面が一旦完成すると、データベース1に格納され、登録済データ2となる。

【0025】これらデータは印刷装置4により印字・印刷され、手作業で依頼人顧客担当者（特許担当者）と発明者に送られ、修正や追加、削除等が施されて、返送されて出願内容が確定する。または、モデム28により通信回線を介し依頼元の担当者に伝送され、依頼元の担当者からの修正等は後日モデム28を介し、本装置に送られてくる。その後必要に応じて、事務所の担当者はデータベース1の該当する登録済データ2の明細書と図面を訂正する。

【0026】また、手続き業務用の属性に変更があれば、再度出願入力画面21を表示して、例えば、発明の名称が依頼時より変更される場合は発明の名称を訂正し、また請求項の増減があれば、確定した請求項の数を入力する。明細書が完成し出願が可能になると、オペレータは出願入力画面21の出願日に当日の日付を入力する。すると管理プログラム37は出願入力画面21の出願日の欄の日付を自動的にワープロソフト38に送り願書の日付を同じ日付で入力できるようにする。

【0027】完成した明細書のテキストはJIS10変換ソフト40により、また、画像の図面はJIS40変

換ソフト41により電子出願形式にそれぞれ変換される。電子出願形式の書面と図面は、電子出願ソフト42によりモデム28を介して特許庁の受付計算機に送信され、受付計算機から出願番号が転送されてくる。この出願番号は管理プログラム37により、データベース1の所定位置に格納され、当該出願に係る登録済データ2の一部となる。

【0028】さて、出願後所定の期間が経過すると、願書と明細書と図面と要約書とは公開され、この時特定の公開番号が付与され、代理人や出願人に通知される。特許庁から送られてくる特定の公開番号を、オペレータが入力装置5を使用して、データベース1に入力すると当該出願に係る登録済データ2の一部となる。顧客が出願済発明について、審査請求書を特許庁に提出した場合は、審査請求の日付が、オペレータが入力装置5により、データベース1に入力する。

【0029】審査請求書提出後所定の審査が経過すると、特許庁から例えば特許に該当しないという拒絶理由書が送られてくる。これに不服の者は発送日から何日以内に意見書・補正書を提出するようにと通知される。この発送日と何日以内という期限を、オペレータが入力装置5を使用して、データベース1に入力する。

【0030】出願済発明について、審査が終了し、例えば特許査定になると、所定の期間が経過し、願書と明細書と図面と要約書とは特許庁から印刷物として公告され、この時特定の公告番号が付与され、代理人や出願人に通知される。特許庁から送られてくる特定の公告番号を、オペレータが入力装置5を使用して、データベース1に入力する。

【0031】印刷物のこの公告を見た第3者が、この公告に異議がある場合は、この第3者が特許庁に異議申立書を送り、特許庁から異議申立書の写しが出願人（代理人）に、送られてくる、オペレータが異議申立書の写しの項目（申立人名等）を入力装置5を使用して、データベース1に入力する。この時データベース1内で当該事件の係争欄のフラグF1はオンとされる。異議申立書の写しの発送日から何日以内に意見書・補正書を提出するようにと通知される。この発送日と何日以内という期限を、オペレータが入力装置5を使用して、データベース1に入力する。

【0032】公告後所定の期間：3カ月が異議申立がなく経過すると、特許庁から特許査定書が送られてくる。この特許査定書の発送日から何日以内に3年分の登録料金を納付するようにと通知される。この発送日と何日以内という期限を、オペレータが入力装置5を使用して、データベース1に入力する。

【0033】既に特許になり特許料金が支払われている特許発明について、例えば第3者が無効審判を請求した場合は、この第3者が特許庁に無効審判請求書を送り、特許庁から無効審判請求書の写しの特許権利者即ち出願

人（代理人）に、送られてくる。オペレータが無効審判請求書の写しの項目（請求人名等）を入力装置5を使用して、データベース1に入力する。無効審判請求書の写しの発送日から何日以内に、べんばく書や意見書・補正書を提出するようにと通知される。

【0034】この発送日と何日以内という期限を、オペレータが入力装置5を使用して、データベース1に入力する。この時データベース1内で当該事件の係争欄のフラグF1はオンとされる。データベース1には同一事件又は各種の属性やデータが追加され、または新たな事件が入力されて、登録済データ2が多数蓄積される。

【0035】かくして、図1において、データベース1は特許庁に提出した発明の書類データが出願順に格納され、電子台帳が形成される。登録により確定した登録済データ2の年度込み日付けもCPU7に送られており、CPU7は年度込み日付けとタイマ34の実時間データとを比較し、特許法上の法定期限や出願前の顧客と特許事務所との間で契約される出願期限を算出する。

【0036】出願数が少数の間は、電子台帳を直接表示装置6に表示し、画面をスクロールすれば容易に全ての特許出願を見ることができる。出願数何百、何千、何万と増加すると、特定の特許書類を見つけるには、虫眼鏡の絵の検索アイコン53の検索プログラムを使用して、キーワードから対象範囲を狭めていくようにする。

【0037】図2、4において各アイコンの使用について説明する。係争の剣のアイコン51をクリックすると、図6の係争入力画面22が現れる、検索用に、出願の入力画面21上のいずれか一の項目、例えば、覚え易い係争相手、殆ど覚えられないが出願人、整理番号等を入力すると、WINDOWS95ソフト36の検索細胞により、該当する事件の詳細、登録済の全属性：当方整理番号、顧客理番号、出願整理番号、受任日、原稿送付期限、出願期限、原稿送付日、原稿戻日、原稿チェック日、明細書作成担当者、包袋番号、出願日、出願番号、公開日、公開番号、審判請求人（当事者系）、審判の種類（査定系）、審判の種類（当事者系）、審判請求日（査定系）、国内優先権主張出願日、パリ条約優先権主張出願日等がCRT6に表示される。

【0038】なお、係争事件の一覧表は、願番により検索の虫眼鏡のアイコン42を選択し、検索入力画面24上で読み出すこともできる。WINDOWS95ソフト36の係争検出細胞はデータベース1内の登録済データ22の係争フラグ欄のフラグF1をみて係争の特許出願や特許発明を検出し、その出願番号、公開番号、公告番号、特許番号、発明の名称、その他の属性、発明者、出願人、担当者名等を表示する。

【0039】次に、図2、4において、期限のカレンダー（暦）のアイコン52をクリックすると、図7の期限入力画面23が現れる。WINDOWS95ソフト36の期限検出細胞はデータベース1内の登録済データ22

10

20

30

40

50

を調べ、事件種別やキーワードや国際分類や期間条件を入力すると、タイマ34からの時間tを関数として、期限の短い事件から先にリストアップしてCRT6上に表示する。

【0040】図2、4において、検索の虫眼鏡のアイコン53をクリックすると、図8の検索入力画面24が現れる。検索の虫眼鏡のアイコン42では好みのソートが可能であり、WINDOWS95ソフト36の検索細胞は出願人別、年度別、国際分類別等各種に絞り込みができる。

【0041】図2、4において、鍵の絵の管理のアイコン54をクリックすると、図9の管理入力画面25が現れる。管理の鍵の絵のアイコン54出願・係争関連と金銭に掛かる請求関連の検索ができる。出願・係争関連では特許庁に関する各種ソートが可能であり、WINDOWS95ソフト36の検索細胞は、補正等な手続き業務に絞り込みができる。請求関連では特許庁や顧客との間の金銭に関する各種ソートが可能であり、WINDOWS95ソフト36の検索細胞は年金や手数料等別に絞り込みができる。

【0042】図2、4において、円マークの請求書のアイコン55をクリックすると、図10の請求入力画面24が現れる。請求入力画面26は請求書を作成するもので、事件毎に4法種別、請求項の数、書面と図面の枚数等を入力すると、依頼者宛の請求書が自動的に作成される。ここでは、必要なら出願情報フィールドの当方整理番号、顧客理番号、受任日、明細書作成担当者、出願日、出願番号も付記できる。

【0043】また、源泉額、消費税額、印紙代、手数料等の内訳が記入でき、印刷装置4から請求書を印刷し、顧客に発送できる。請求書の種類には、出願、補正書意見書、成功報酬、審判、通知、年金納付、審査請求等の提出時に発生するものがある。請求書には、出願人の住所、請求先の住所、事業所の担当者が自動的に表示・印刷されるので、作業の手間が大幅に省略できる。

【0044】最後に、図2、4において、プリンターの絵帳票のアイコン56をクリックすると、図11の帳票入力画面27が現れる。帳票入力画面27では、出願前の受任一覧や出願済の審査未請求一覧や権利満了一覧等の項目が表示され、いずれかを選択すると、ソート細胞がデータベース1をソートする。以上特許の手続きについて説明したが、実用新案や商標や意匠の手続きについてもプログラム装置8は該当する法知識に従って、同様に処理する。

【0045】この発明では、WINDOWS95ソフト36と特許事務総合管理プログラム37とが総合作用して、係争のフラグF1の有無を調べ、期限細胞が各期限を比較して期限の迫った事件を順に並べて表示装置6に表示する。また、手続き毎の期限の種別でもソートする、更に、出願順に全事件を並べて表示する。出願件数

が何百、何千、何万になっても、期限事件や見たい事件を瞬時に見つけることができる。特許業務の煩雑さを省力化するといともに、期限の正確性を維持できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の特許事務総合処理装置の全体のブロック図である。

【図2】本発明の特許事務総合処理装置の始動時の画面表示を示す図である。

10 【図3】本発明の特許事務総合処理装置の要部のブロック回路図である。

【図4】本発明の特許事務総合処理装置の動作時の画面表示を示す図である。

【図5】本発明の特許事務総合処理装置の動作時の特許出願入力画面を示す図である。

【図6】本発明の特許事務総合処理装置の動作時の係争入力画面を示す図である。

【図7】本発明の特許事務総合処理装置の動作時の期限入力画面を示す図である。

20 【図8】本発明の特許事務総合処理装置の動作時の検索入力画面を示す図である。

【図9】本発明の特許事務総合処理装置の動作時の管理入力画面を示す図である。

【図10】本発明の特許事務総合処理装置の動作時の請求入力画面を示す図である。

【図11】本発明の特許事務総合処理装置の動作時の帳票入力画面を示す図である。

【図12】本発明の特許事務総合処理装置の動作時の期限一覧画面を示す図である。

【符号の説明】

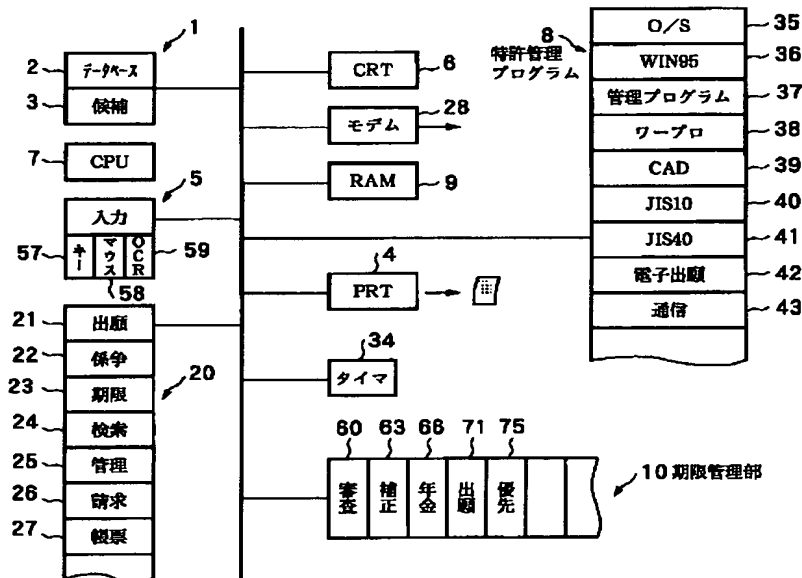
- | | | |
|-------|------------|----|
| 1 | データベース | 30 |
| 2 | 登録済データ | |
| 3 | 候補文字列（用語） | |
| 4 | 印刷装置 | |
| 5 | 入力装置 | |
| 6 | 表示装置 | |
| 7 | CPU | |
| 8 | プログラム装置 | |
| 9 | RAM | |
| 10 | 期限管理部 | |
| 20 | フォーマットテーブル | 40 |
| 21 | 特許出願入力画面 | |
| 22 | 係争入力画面 | |
| 23 | 期限入力画面 | |
| 24 | 検索入力画面 | |
| 25 | 管理入力画面 | |
| 26 | 請求入力画面 | |
| 27 | 帳票入力画面 | |
| 30 | 期限一覧表画面 | |
| 31、33 | 最小化画像 | |
| 32 | 受任管理画面 | 50 |

34 タイマ
 35 基本ソフトのO/S
 36 WINDOWS95ソフト
 37 特許事務総合管理プログラム
 38 ワープロソフト
 39 製図ソフト
 40 JIS10変換ソフト
 41 JIS40変換ソフト
 42 電子出願ソフト
 43 通信プログラム
 50、51、52、53、54、55 アイコン
 57 キーボード
 58 マウス
 59 OCR
 60 審査請求期限設定細胞

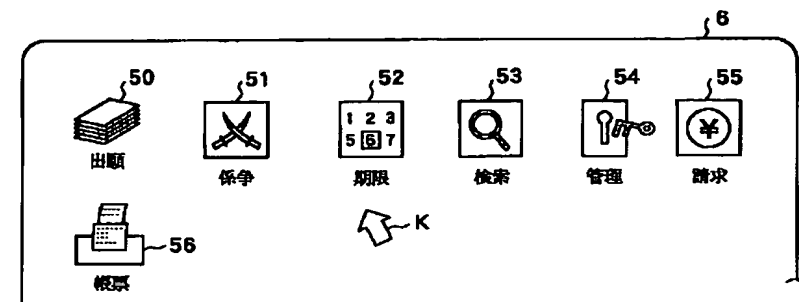
* 61 審査請求期限記憶位置
 63 補正期限設定細胞
 64 補正書提出期限記憶位置
 66 年金納付期限設定細胞
 67 納付期限日記憶位置
 68 年金納付判断細胞
 70 バス
 71 出願期限設定細胞
 72 出願期限記憶位置
 73 出願期限判断細胞
 75 優先権期限設定細胞
 76 優先権請求期限記憶位置
 77 優先権期限判定細胞
 K カーソル

*

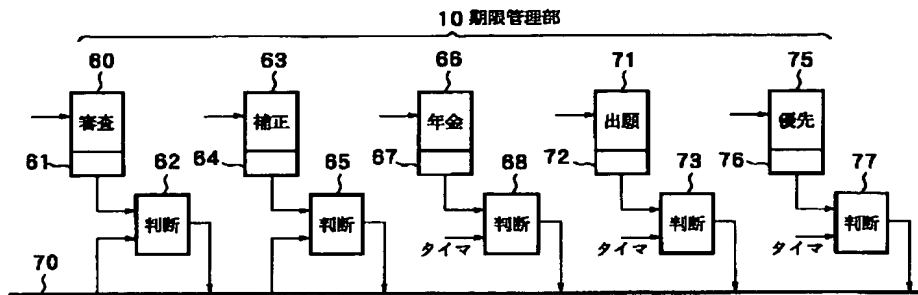
【図1】



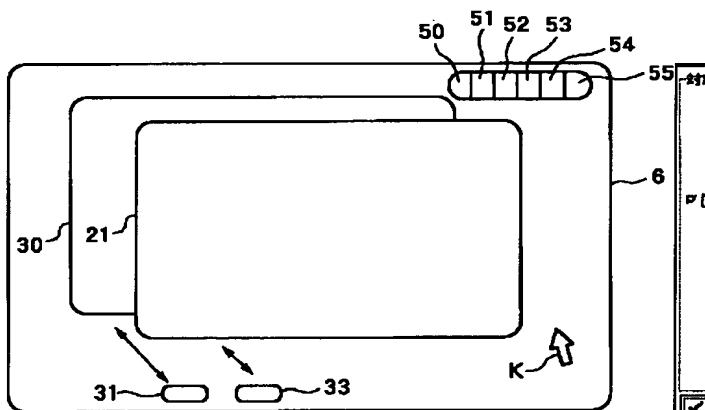
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

【図7】

【図8】

【☒ 1 1】

[illegible]

【図 1 2】

30 期限一覧画面

期限一覧

検索期間: 1ヶ月以内
 シフト: 全日
 担当者:

表示: 代表者
 曜日: 月

Total 3

ダブルクリックで入力の画面にジャンプします。
 F7 見出しを印刷

項目名	期限日	担当者	項目名	期限日	担当者
出庫品	1997/03/25	コスモテック株式会社 システム 出	コスモテック	1997/03/25	コスモテック
出庫品	1997/03/25	コスモテック株式会社 システム 出	コスモテック	1997/03/25	コスモテック
出庫品	1997/03/25	テスト	テスト	1997/03/25	テスト